土木界隈 第11回

四季の鳥

私たちの近くに息づく野生

［文・写真］中田一真

カワウ
―安住の地はいずこ

営巣地の木が大量の糞(ふん)で枯れる、放流した鮎が食べられてしまう…そんなこんなの苦情殺到で、全国的な嫌われ者になってしまったカワウ。鉄砲で追い払われるほどに事態は深刻だ。

そのカワウが、わがまちの外れにあるダム湖に集団ですみ着いた。ダムは、ニュータウン開発の飲料水確保などの目的でできたもの。湖底には集落が一つ沈んでいると聞く。

湖には、誰が放したのか、外来魚のブラックバスがたくさんいる。カワウの獲物だ。周囲に人家が少ないのもカワウたちには好都合。続々と飛来し、湖畔の一角の林には黒い鳥が鈴なりになっている。

彼らにとって不幸なのは、塒(ねぐら)にしている松の木が、早くも糞で白く枯れ始めたことだろう。そのうち誰かが「これは問題だ」と言い出すに違いない。ここが彼らの安住の地となるかどうか、まだまだ予断を許さない。

都会の人が押し寄せて、山を開き、川をせきとめ、バスを放した。それを見つけたのは人に追われた流浪のカワウ。鳥を追うのも人ならば、その鳥の棲(すみか)み処を知らぬ間に提供しているのも人で、集まった鳥たちの糞に憤慨するのも、また人だ。

われわれ人間の振る舞いをあなた方はどう思うのか、鳥の言葉がわかるなら、カワウに一度尋ねてみたい。

カワウ　ペリカン目ウ科
全長91cm
［撮影地］兵庫県三田市

なかた・かずま
1966年生まれ。会社員、野鳥写真家。
身近な鳥たちの四季折々の姿を20年撮影し続けている。
【中田一真のホームページ】
http://www.asahi-net.or.jp/~jx7k-nkt/

©NAKATA Kazuma